

◆ 今週のコメント

- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(男性, 50歳代)あります。症状は発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 下痢, 肺炎です。推定感染地域は国内で, 感染経路は不明です。
- インフルエンザの本市の定点当たり報告数は, 0.20(13例)で, 先週(0.09)と比べ倍増しています。全国のインフルエンザの定点当たり報告数は1.11で, 流行開始の目安となる1.00を超えています。近畿圏内では兵庫県, 滋賀県で1.00を超えています。京都市内の病原体定点から受け付けた検体から, 京都市衛生環境研究所で今シーズン1例目のインフルエンザウイルスA/H3型(香港型)が分離・検出されました。全国においてもA/H3型(香港型)が多くなっています。また, 12月6日に右京区の小学校で今シーズン初めての学級閉鎖の報告がありました。今後の動向に御注意ください。
- 手足口病の定点当たり報告数は, 1.31(51例)です。第28週(7月11日～7月17日)をピークに減少してきましたが, 第46週(11月14日～11月20日)以降, 1.00前後で推移しており, 例年の同時期に比べ多い状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は, 4.59(179例)で, 先週(2.74)の約1.7倍に増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染

- 二類: 結核 3例(肺結核 なし, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 434例(肺結核 214例, その他結核 81例, 潜在性結核感染者 139例)うち喀痰塗抹陽性 118例】
- 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 11例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点66, 小児科定点39, 眼科定点10, 基幹定点1)

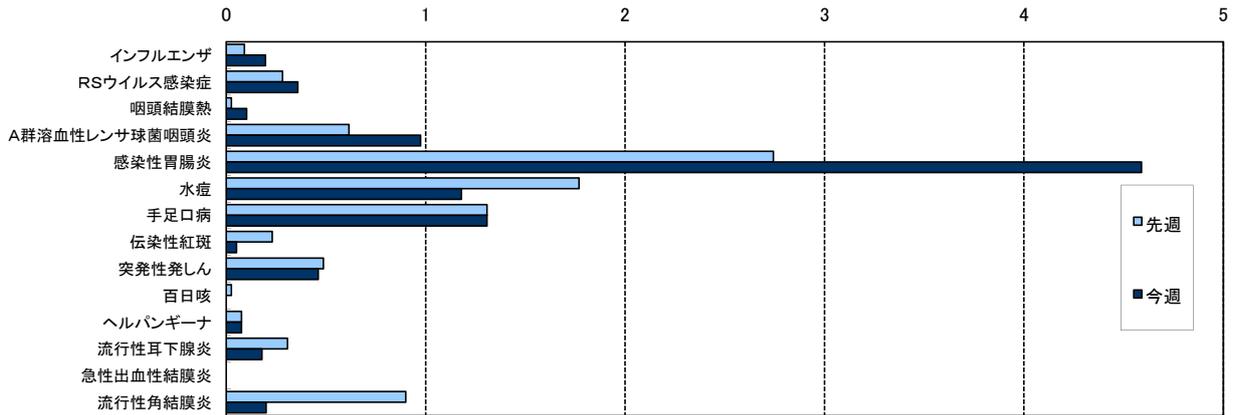
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.20	13
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.59	179
	② 手足口病	1.31	51
	③ 水痘	1.18	46
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.97	38
	⑤ 突発性発しん	0.46	18
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

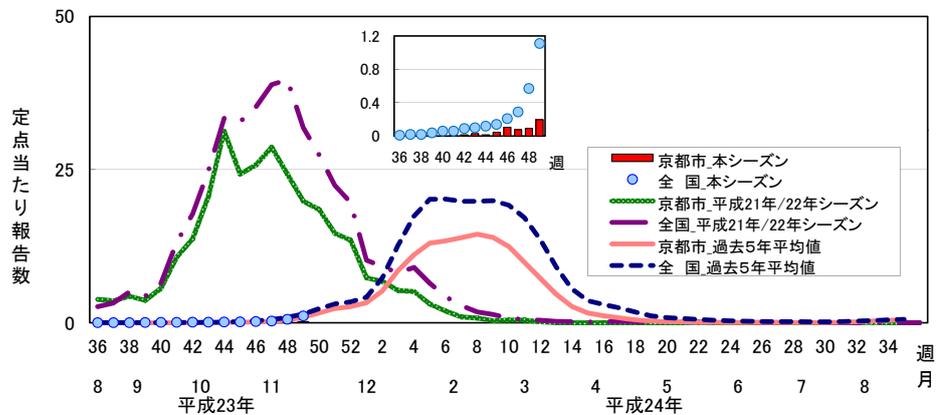
(注) 京都市のデータは, 平成23年12月15日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第45週	3
第46週	7
第47週	5
第48週	6
第49週	13
累積報告数 (第36週以降)	40

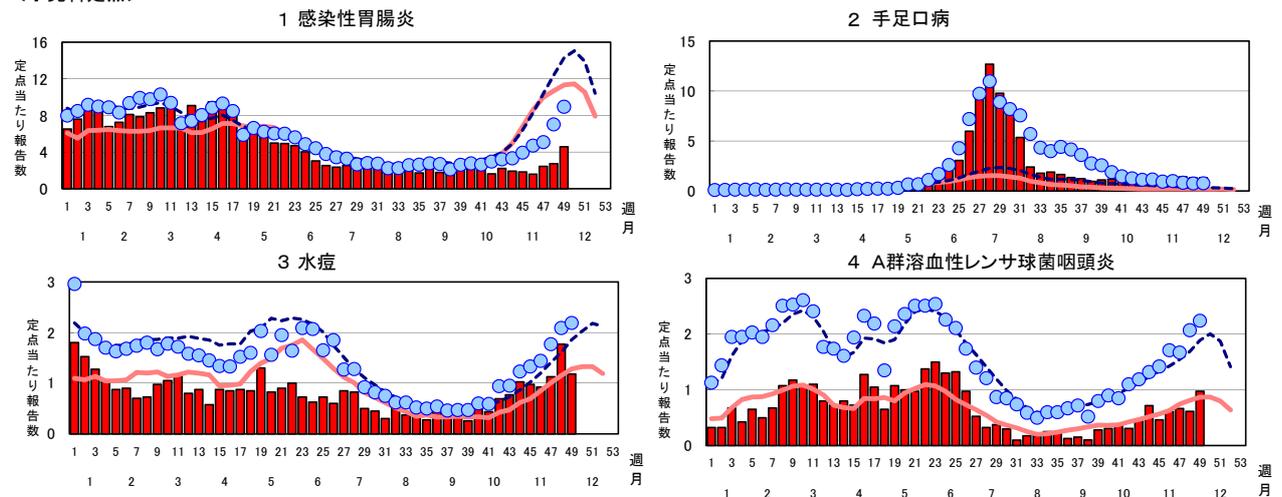


※平成21年/22年シーズンは、新型コロナウイルスの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH17-H21年の平均値です。

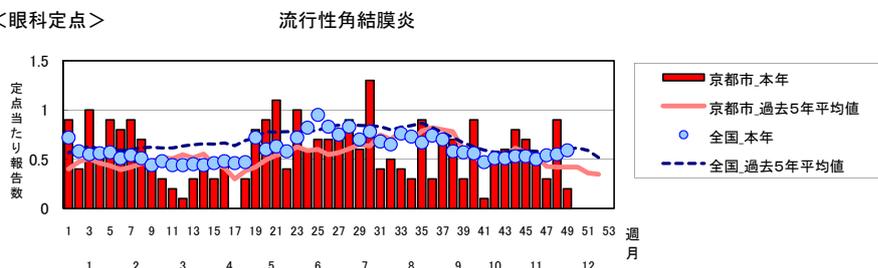
※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

3 主な感染症の定点あたり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



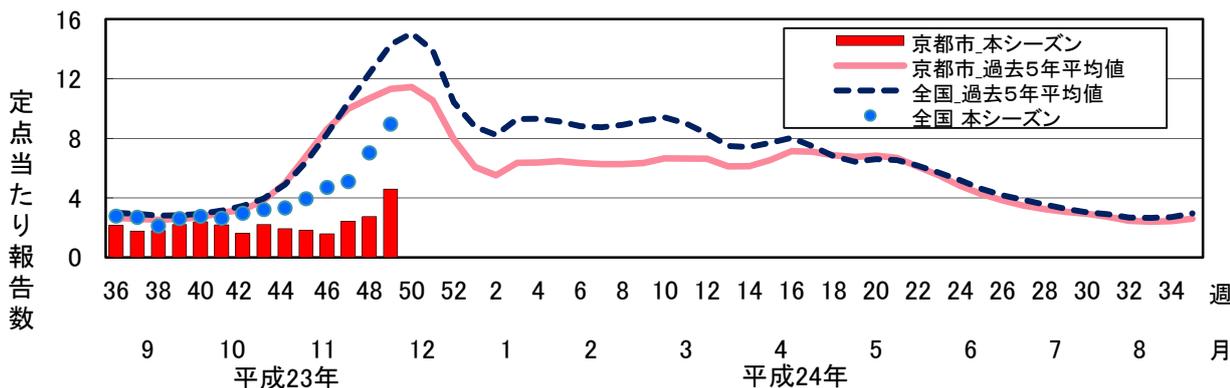
第49週(12月5日～12月11日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、4.59(179例)で、先週(2.74)の約1.7倍に増加しています。今後の動向にご注意ください。

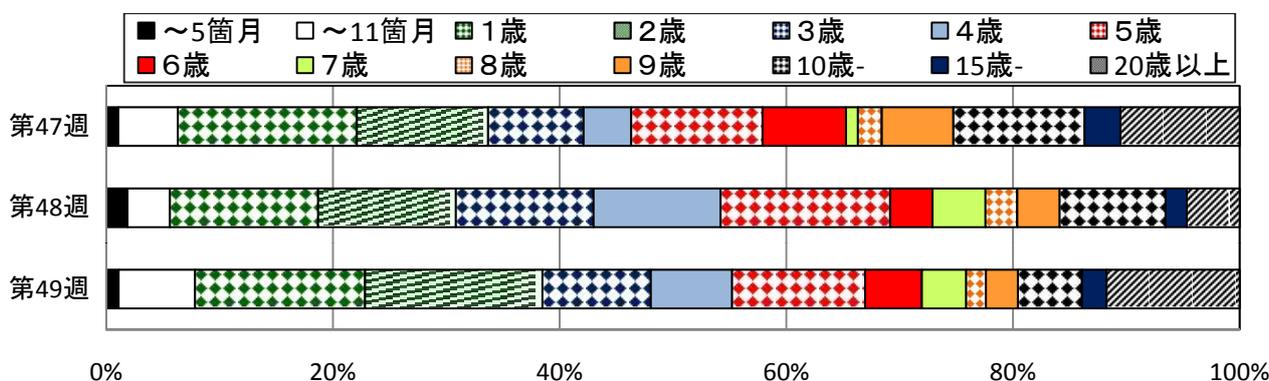
年齢階級別では、2歳が28例(15.6%)と最も多く、次いで1歳 27例(15.1%)、5歳 21例(11.7%)の順となっており、5歳以下で67.0%を占めています。

京都市衛生環境研究所に12月に搬入された集団発生の検体からノロウイルスG I, G IIを検出しています。また、全国ではノロウイルスG IIの報告が徐々に増加しています。

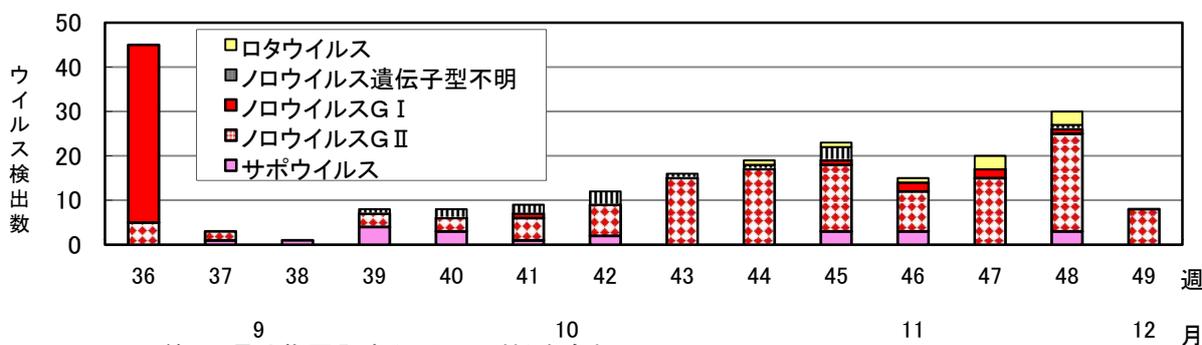
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移



全国の今シーズンのウイルスの検出状況(平成23年12月20日現在)



* 第36週は集団発生(G I :39件)を含む